

第二次霧島市総合計画(後期基本計画)施策評価シート

令和6年度

政策	4. はぐくみ(社会を生き抜く力と生涯を通じて学びあう力を育むまちづくり)	SDGs			3	4	5					
施策	2. 多様な学びを支援する社会教育の充実		10	11							17	

施策で目指す姿

●体験活動等を通して、心身共にたくましい「きりしまっ子」を育成し、子どもたちが夢や目標を持てるような取組を推進します。
●地域学校協働活動の推進や家庭・地域の教育力の向上により、地域ぐるみで青少年を育成する気運を醸成します。
●市民の学習のための環境や内容の充実、成果の還元、情報の提供に努めます。
●文化財に触れ、学ぶ機会を積極的に設けることで、郷土に誇りを持つ心の醸成や文化財の保存・活用を図り、貴重な遺産を後世に伝えます。

基本事業における成果・課題・改善策

1. 生きる力を育む体験・交流活動の充実	決算額	6,203千円
令和6年度の事業成果	令和6年度の事業課題(&変化した現状・課題)	令和7年度以降の改善策
■きりしまっ子立志育成事業(自然体験編)で霧島の豊かな自然や歴史・文化を学び、郷土愛を醸成するとともに、異年齢の集団活動による宿泊体験活動を行うことにより自立性・協調性の育成に取り組んだ。	■きりしまっ子立志育成事業(職業体験編)において、森林環境譲与税を活用し九州電力、九電みらい財団と共催し親子で体験活動することができた。参加した子どもにとっては貴重な体験になった。一方、定員に対して割り込んだことから、全ての事業について、効果的な周知・広報の在り方を検討する。	■きりしまっ子立志育成事業(特に自然体験編)については、費用対効果や職員の働き方改革を含めた見直しを今年度中に検討する。また、「キリシまち」について、職業体験としては小学4～6年生を対象としていることから、関係機関で構成される「キリシまち実行委員会」と会場や内容等について協議を行い、キャリア教育への橋渡しとなるよう今後も民間の協力を得て続けていけるよう取り組む。
2. 地域ぐるみで子どもの成長を支える体制づくり	決算額	12,184千円
令和6年度の事業成果	令和6年度の事業課題(&変化した現状・課題)	令和7年度以降の改善策
■教育の原点であると言われる家庭教育学級を市内の全ての幼稚園、小・中学校(全47家庭教育学級)に開設し、あるべき保護者の姿の啓発や家庭の教育力向上を図った。また、次年度から導入する「学校運営協議会(CS)」について管理職研修会等で意義や期待される効果等について説明を行った。	■「学校運営協議会(CS)」について、校長及び教頭など管理職への説明を行ったがまだまだ浸透していないため次年度も引き続き、地域・住民等を含めて周知・啓発が必要である。	■地域ぐるみで子育てを支援する体制づくりとして、これまで活動してきた「地域学校協働活動」を柱とし、令和7年度から導入する「学校運営協議会(CS)」を広く理解して頂き、「コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進」を行うため、社会教育コーディネーターやきりしま地域人材バンクと連携するなど本市の特徴を活かした推進体制づくりに努める。
3. 多様な学びを支援する学習環境の充実	決算額	764,302千円
令和6年度の事業成果	令和6年度の事業課題(&変化した現状・課題)	令和7年度以降の改善策
■公民館定期講座を94講座、公民館短期講座を5講座開設する等、市民へ多様な学びの提供を行った。また、熱中症対策として10月に開講する講座も設定し、学習環境の向上を図った。 ■施設・設備の修繕や更新等を行い、安心・安全な学習環境の提供に努めた。	■公民館定期講座の新規申込者の割合は、昨年度より減少したものの目標値を達成していることから、引き続き市民が学びに興味・関心を持つよう講座内容の充実や講座の情報提供に努めていく必要がある。 ■経年劣化が進んでいる施設・設備の修繕・更新等を計画的に進めていく必要がある。	■市民の多様な学びのニーズに対応した講座内容の充実、学習情報の周知、学習環境の整備を行い、新たな学びの支援を図っていく。
4. 文化財の保存・継承と活用	決算額	51,819千円
令和6年度の事業成果	令和6年度の事業課題(&変化した現状・課題)	令和7年度以降の改善策
■国宝「霧島神宮」防災設備整備事業への補助、県指定「旧田中家別邸」や市指定「宮坂貝塚」の修繕を行い、文化財の保全を図った。 ■都市計画道路犬追馬場線の改良工事に伴う「大隅国分寺跡」発掘調査を行い、遺跡の記録保存を行った。 ■郷土館等の企画展や、史跡巡り、体験活動、歴史講座など啓発事業を行い、郷土の歴史や文化財に触れ、学ぶ機会を広く提供できた。企画展についてはSNSの反響が大きく入館者が増加した。	■県指定「旧田中家別邸」の土間壁面にヒビなど不具合が見られる。 ■国分郷土館の玄関に雨漏りがある。	■県指定「旧田中家別邸」の修繕を年次的に行うなど、適切な文化財の整備を行い、後世に継承できるよう取り組む。 ■国分郷土館玄関の雨漏りの修繕を行う。郷土館等の集約を含む施設整備について協議を進めていく。 ■SNS等を活用した発信に努めながら、ニーズに沿った啓発事業を行い、文化財の理解者・継承者の増加を図っていく。

施策の進捗状況

KPI (重要業績評価指数)	測定方法	実績値	進捗率	実績値の検証
		目標値	方向性	
63. 住んでいる地域の行事に参加している児童生徒の割合	文部科学省「全国学力・学習状況調査」(児童・生徒質問紙調査)	3.6%	△234.09%	数値を測定する調査が変更になったため2024(令和6)年度の実績を現状値として以降令和9年度まで年0.1ポイントの増加を目指す。
		62.4%	↑	
64. 学習している市民の割合	市民意識調査	-%	-	未把握
		53.1%	↑	
65. 公民館定期講座申込者に占める新規申込者の割合	市公民館定期講座の新規申込者数／申込者総数(N-1)	77%	100.00%	令和6年度は、前年度と比べると進捗率は下がっているが、目標値に達していることから引き続き学びに興味・関心・意欲を持った方が定期講座に申込をしてきたと考えられる。
		77%	↑	
66. 文化財保存・継承活動の実践者と参加者の人数	市郷土館入館者数と文化財保存・継承活動の参加者数の合計(N-1)	7,016人	63.85%	集客の大きかった共催の啓発事業開催による参加者の増加、企画展の開催による郷土館等の入館者の増加が見られた。
		8,000人	↑	

改善策を踏まえた施策としての取組方針
●児童・生徒の段階で様々な学びを体験することは、将来、社会を生き抜く資質・能力を身に付けることができる。そのためには、発達段階に応じた望ましい体験の在り方を社会教育関係団体と連携して調査・研究していく。 ●「コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進」を展開するためには、学校を取り巻く環境や歴史など地域性を生かしそこに携わる人材が必要である。また、様々な場面において「きりしま地域人材バンク」を有効活用していく。 ●市民の多様な学びのニーズに対応した講座内容の充実、SNS等を活用した積極的な学習情報の周知を行うとともに、施設の修繕や設備の更新等による学習環境の整備を行い、市民の学びの支援を図る。 ●文化財の適切な整備、展示・収蔵施設の整備、啓発事業や情報発信により文化財の理解者・継承者の増加に努め、文化財の保存・活用、後世への継承を図る。

施策幹事課	関係課
教育部社会教育課	商工観光部商工観光施設課 / 教育部国分図書館 / 教育部メディアセンター